



革新的イノベーションへの取り組み

公益財団法人地球環境産業技術研究機構

常務理事 河上 豊

RITEで常務理事をしております河上でございます。

RITEは昨年、設立30年を迎え、今年は次の10年の歩みを進める最初の年となります。

メンバー一同、気持ちも新たにより一層の努力、研鑽に励み、成果を上げ、公益財団法人として、社会に貢献する所存、引き続き、皆さまからのご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

RITEは地球温暖化問題を中心とした地球環境問題を解決するための技術開発に取り組む研究機構ですが、世界的なコロナ禍の中、世の中の地球温暖化問題への関心も陰っていた感がありましたが、本来、長期的な課題である地球温暖化問題の重要性が変わるものではなく、最重要課題として昨年10月の菅首相の所信表明において、2050年にカーボンニュートラルを目指すことが宣言され、それまでの2050年80%削減から取り組みが加速化されることとなりました。

地球温暖化問題の難しさは大幅な温室効果ガス削減に伴うコスト負担であり、SDGsにおける地球温暖化問題以外の目標とのトレードオフの関係やエネルギー政策においてベースとなるS+3E(安全を最優先に環境、経済、エネルギーセキュリティの同時達成)を考えると、その解決には革新的イノベーションが必須となります。また、あらゆる分野での革新的イノベーションを総動員して挑まなければ、達成は不可能な難題であります。

このような中、私ども RITE の重要性はますます増していることを一同認識し、身の引き締まる思いで日々、尽力しております。

RITEにおいてはCCSやバイオリファイナリーといった既存の研究については既に、実証段階から社会実装の段階に至っており、加速化を図っています。既存技術は着実に進めていく一方、あらゆる分野での取り組みが必要と申し上げた通り、新たな取り組みにも挑んでおります。新たな取り組みの一例を紹介します。

システム研究グループではエネルギー供給サイドの検討が中心でしたが、AIやIT技術の進展を受け、需要サイドでのエネルギー使用量の大幅削減の可能性を織り込んだシミュレーションを進めております。

化学研究グループでは将来のCO₂大幅削減において有効な技術となる可能性のある直接、大気中からCO₂を回収するDACの技術開発に着手しております。

CO₂貯留研究グループでは国内での貯留に留まらず、海外への技術展開を進めております。

バイオ研究グループでは地球温暖化問題と廃プラスチック問題の両方に寄与する技術としてバイオプロセスによる生分解性プラスチックの開発に着手しております。

無機膜研究センターでは水素関連の技術開発を中心としていましたが、無機膜を用いたCCUによる燃料製造技術の開発に着手しております。

これからもRITEは我々の持つ技術シーズや知見、ノウハウをフル活用して、多岐にわたる分野での革新的イノベーションを完遂し、バランスのとれたリスク対応が可能となるよう、研究成果を上げて参る所存です。

今後のRITEの研究成果に注目頂きたいと思っております。